

ハリオグラスビル (国登録有形文化財)

日本橋富沢町9-3



昭和7年(1932)竣工のハリオグラスビルは、銀行(川崎貯蓄銀行・常陽銀行)支店として用いられてきた鉄筋コンクリート造の建物です。外観デザインは西洋の古典様式で、周囲には溝彫したコリント式オーダーを回し、北西角の隅切り部にはイオニア・ドリスの両様式がみられます。

柳橋 (中央区民文化財)

東日本橋2~台東区柳橋1



昭和4年(1929)竣工の柳橋は、関東大震災後の復興事業で改築された鋼鉄製の橋梁です。神田川の河口に位置する橋梁であったため、隅田川を航行する船頭が位置を確認しやすい形状で設計されました。また、隅田川に架かる永代橋をモデルにしたことから、シンプルで重量感のあるデザインとなっています。耐震構造や船の通航などを考慮して計画された柳橋は、昭和初期の橋梁技術と特徴的なデザインを今に伝えています。

文化財 記念碑

両国広小路記念碑

東日本橋2-26-1先



明暦3年(1657)の大火後、防災・避難の便を図るために武蔵と下総を結ぶ両国橋が架橋されました。往来の多い両国橋には、橋詰に延焼防止を目的とする防火帯の火除明地(広小路)が設けられました。仮設の店舗や芸能が催された両国広小路は、江戸最大の盛り場へと発展しました。

講談発祥記念の碑

東日本橋2-6-8 葉研堀不動院境内



太平記の講釈を前身とする講談は、江戸時代に発展した朗誦を基本とする芸能の一つです。演者である講釈師には、元禄5年(1692)に浅草見附の傍ら(現在の浅草橋のたもと)で講じた赤松清左衛門が知られています。浅草見附の講釈場に近い不動院境内には石碑が建立されています。

順天堂発祥の地

東日本橋2-6-8 葉研堀不動院境内



蘭方医の佐藤泰然は、天保9年(1838)に葉研堀(現在の東日本橋二丁目)へ蘭方医学塾「和田塾」を開きました。その後、下総国佐倉藩主の招きで佐倉に西洋医学の塾「順天堂」を開設しています。不動院境内には、順天堂大学の発祥にあたる和田塾の創設を記念した石碑があります。

歴史モノがたり

東都両国ばし夏景色

安政6年(1859) 歌川貞秀/画

Episode 2



江戸の夏を代表する風物詩「両国の川開き」で催される花火の見物風景を描いた錦絵です。画面中央の両国橋は、花火を間近で見ようとする群集で埋め尽くされています。隅田川下流には、夏の夜空を彩る鍵屋の仕掛け花火が打ち上げられ、舟上から見物する人も集まって大いにぎわっています。魚眼レンズを通したような隅田川の歪曲表現が、その場にいるような臨場感を感じさせる非常にダイナミックな作品です。

収蔵品アーカイブズ



http://www.chuo-museum.jp